

れんけい

題字：松尾信彦書

香川県立中央病院
Kagawa prefectural central hospital

様々なニーズに対応できる 大腸内視鏡検査が可能となりました

消化器内科診療科長 内視鏡センター長 稲葉知己

- 腫瘍チーム、特殊腸炎チームで構成された専門医 12 名
- 痛み止め等を使用した安楽な検査
- 男性医師、女性医師
- 検査に必要な当日の下剤の服用方法（自宅、病院内、入院）
- 検査室は完全個室
- 外来でのポリープ切除後の出血等にも完全対応

わが国の全ての「がん」の中で、大腸がんは新たに「がん」になる人数が最も多く、亡くなる患者さんの数は第二位（女性では一位）です。一方で、死亡率は他の「がん」よりかなり低く、10 年間でも低下傾向です。この違いの理由は、検診体制が確立してきたこと、内視鏡医がポリープ切除により「がん」の芽を除去してきたこと、早期の大腸がんは悪性度が比較的低いこと（途中からは悪性度が上昇します）、外科治療も含めた治療法の進歩などです。

つまり、**大腸がんは適切な検診と精密検査で助かりうる「がん」**と言えます。大腸がんの検診は便に血が混ざっていないかを調べる便潜血検査が行われますが、検査で陽性となった場合は大腸内視鏡検査が必要となります。

■前処置について

大腸内視鏡検査では、大腸にたまっている便をきれいに洗い流す必要があり、これを前処置と言います。前処置として、検査当日朝に液体の下剤を 1-2 リットル飲んでいただきます。

多くの病院・診療所では、全ての患者さんにこの下剤を施設内で飲んでいただいています。

当院では、自宅、病院内、入院のいずれかで前処置を行うことができます。

自宅での服用は、慣れた場所であることや家事や事務作業を並行して行えるなどメリットがあります。一方で、病院として、患者さんの変化に迅速に対応できる体制も必要となります。

当院では、30 年以上、自宅での服用を行っており、体制は確立しています。



自宅で服用

病院での服用は、看護師さんの助けを得ることができる、検査開始を早めることができるなどメリットがあります。

不安の大きい方には入院での検査にも対応しています。それぞれの利点等は当院外来でお聞ください（電話での対応はいたしておりません）。



院内前処置室で服用

■痛み止め等について

一般的には大腸内視鏡検査は痛みなく行えますが、おなかの手術をされた患者さんやおなかの中に癒着（腸が他の部分とくっついている）がある場合は痛みを伴うことがあります。最近では、痛み止めや眠くなる薬を積極的に使用して**（完全に意識がなくなるわけではありません）**安楽な検査が行えます。**痛み止め等を希望される方はご遠慮なくスタッフにお伝えください。**法律により、これらの薬剤を使用した場合は、当日の車等の運転はできません。

■ポリープ切除後の出血等について

外来での切除可能なポリープについては、検査当日に切除しています（大きいポリープや多数のポリープ、特殊な切除術を必要とする場合は後日入院等で対応）。

適切な切除術であっても、一定の確率で後から出血することがありますが、当院でポリープ切除を行った患者さんへの対応は確立しています。

多くの方に大腸がん検診と精密検査を受けていただき、大腸がん克服を目指したいです。



広報誌「れんけい」
バックナンバーが
ご覧いただけます。

発行者 香川県立中央病院 高口 浩一
編集 広報委員会

〒760-8557 高松市朝日町一丁目2番1号
TEL (087)811-3333 FAX (087)802-1160